

コロナで死なないための知らされざる対策法

予防法について

手洗い・うがい・アルコール消毒これらは基本ですが、それぞれの対処法で追加するならばうがい+^{えんげ}燕下ということになります。燕下とは、飲み込みのことで、食物や水分を胃に送り込む働きのことです。

菌やウイルスが鼻や口から入ると、まず喉に付着し適度な体温を餌に増殖を開始します。これを防ぐのが“うがい”なわけですがうがいで届く範囲は上咽頭までであり、その奥にある中咽頭や下咽頭までには届きません。よって、届かない箇所へ付着しているウイルスには効果がないわけで、その辺りに付着しているウイルスを除去するには燕下により、速やかにウイルスを胃に送り込むというのが重要になります。よって、端的にいうと、人と接触した後は口からゴクゴク水分を補給するということです。これにより咽頭に付着したウイルスは胃に送り込まれ、強力な胃酸により死滅するのです。

重症または死亡に至らないための対策法

恐るべき新型コロナといっても、感染後80%は無症状のまま消退します。これは人間の免疫力がウイルスに打ち勝つ結果ですが、打ち勝てない残りの20%が症状を呈し、その内5%が死に至るといわれています。

そしてその5%は、何らかの持病があるか高齢者といわれていますが、ここに大きな落とし穴があります。免疫力の弱っている高齢者はリスクが高いのは当たり前ですが、気をつけるべきは年齢や持病というより、どんな薬を日常的に使用しているかなのです。糖尿病は合併症のリスクが高いため仕方ないとして、例えば高血圧やコレステロールを低下させる薬、抗生剤、解熱鎮痛剤、花粉症などのアレルギーの薬、睡眠薬を日常的に使用している人は要注意です。なぜなら人間が死に至る時には心肺停止に陥るわけで血圧の高さは重要であり、コレステロールは細胞を構成する重要な成分であります。そして人間にはもともと免疫力が備わっており、外部から敵が侵入した場合に発熱・くしゃみ・咳などにより敵を体外に排出する自然的な機能が備わっているのです。それらの機能を麻痺させるのが解熱鎮痛剤や咳止め・アレルギーの薬であり、仮にウイルスに感染しても機能が麻痺してしまっているため異常に気づかずに時間が経過してしまい、体内にこもったウイルスがどんどん増殖してしまうわけです。そしていつしか免疫力で撃退できないほどのウイルス量に達し、ウイルスに命を奪われてしまうのです。すなわち、平和な日常の中で健康診断や人間ドックで軽微な異常を指摘されたことがきっかけで常備薬になった薬こそが、今回のような感染症流行の緊急事態では致命傷へと足を引っ張ってしまう原因になるということです。特に高齢の方へは多くの不必要な薬が処方され、それを常備薬としている方が少なくありません。私自身は薬には副作用が多く、歯肉や顎骨にも悪い作用をおよぼすことが多いため、薬の停止を提案しています。しかし、『あんた死にたいのか?』と脅迫まがいに薬を継続させる内科医もいるようです。

私が懇意にしている優秀な内科医の先生方は『血圧やコレステロールが高くて水分

をしっかり摂取していれば問題ない、薬の副作用のことを考えればそれが最良』とおっしゃいます。ですから新型コロナウイルスも同じで、感染したとしてもアルカリイオン水などを十分に飲んでゆっくり休んでいたら自然治癒も見込めるのです。決して自己判断で風邪薬を飲んだり咳止めや熱冷ましを飲まないようにしてください。そこで散らしてしまうために体内からウイルスが排出されず、いつの間にか自己免疫が勝てないくらいのウイルス量になり、重篤な状態へと陥ってしまうのです。私のクリニックでも薬を使うのは手術直後ぐらいで、歯周疾患に対してはほとんど栄養療法で対応しています。少し先になるでしょうが、これからの医学は薬に頼るよりも栄養療法により自己の免疫で治していく流れになるでしょう。

何度もいうようですが、コロナを怖がる前に、自分が現在、服用している薬を改めて確認し、それが本当に必要かどうか確かめてください。『その薬を服用していたからダメだった』ということは、医者も決して口にはしませんから。

取材協力／テンリアライズ